



↑熱戦を繰り広げるちびっ子力士たち

★戦 獅子島招魂祭 没者をしのび平和を望む

獅子島の恒例行事「獅子島招魂祭」が4月19日にあり、地区民ら約500人が参加。七郎山山頂で戦没者をしのいだほか、山頂近くの広場で小学生の奉納相撲や演芸大会もありました。

慰霊祭では、遺族や各種団体関係者らが祭壇に玉串を捧げた後、町遺族会を代表して瀧畑順一さん（小浜）が「いまだに世界各地で民族紛争や自爆テロなどの行為が続いています。このようなことが一刻も早く終わり、世界中に平和が訪れることが望まれます」とあいさつしました。

奉納相撲には獅子島小、幣串小の男子児童が出演し、ちびっこ力士の好一番に観客から歓声があがっていました。3人抜きを達成した力士は笑顔でこぶしを突き上げ、喜びを体中で表現していました。

★収 本町西岸でヒジキ漁 量の対前年比は微増

本町西岸で4月下旬、ヒジキ漁が始まりました。4月28日には干潮の時間帯に、小浜自治公民館の住民が海岸に繰り出し、かまで黙々とヒジキを刈り取りました。

ヒジキは、海岸近くの岩場の潮間帯に繁茂しますが、本町では近年、生息状況が悪化しています。北さつま漁協長島支所によると、今年は前年と大きさは変わらず、収量は少し増えたそうです。

町では西岸地区で、磯やけ藻場の回復とヒジキの生育不良の原因調査などに取り組んでいます。



↑透明度の高い本町西岸でヒジキをとる住民ら

↓一つずつ丁寧にバレイショを拾い、コンテナにつめる通所者



★長 障害者支援施設がバレイショ収穫 島のジャガイモは大きい

阿久根市脇本の「あいわの里」障害者支援センターと出水市高尾野の障害者支援施設「みんなの力」の通所者らが4月27日、赤土バレイショの産地として名高い本町の指江で収穫に精を出しました。

この取り組みは就労事業の一環で、町内の住民ボランティアも協力しました。総勢約40人が、機械で掘り起こしたバレイショを拾い、表面の土をはらってケースに詰め込んでいました。

阿久根市の岡野春輝さん（21）は「長島のジャガイモは大きい。作業は楽しいです」と話していました。